

房総里山芸術祭 いちはらアート×ミックス2020

キックオフトークイベント

房総里山芸術祭

房総里山芸術祭

いちはらアート×ミックス2020について

アート×ミックスは、市原市の歴史・文化・自然・人の暮らし・食・スポーツなど、地域の持つ様々な資源を現代アートと融合し、里山に活力を漲らせ、より魅力的な「いちはら」を再発見する新しい形の芸術祭です。

2020年、東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。多くの人々が交流するこの機会に、市原を中心とした里山の魅力を広く国内外へ発信していくために、「房総里山芸術祭いちはらアート×ミックス2020」を開催します。“晴れたら市原、行こう”を合言葉に。

会期 | 2020年3月20日(祝・金)～5月17日(日) [59日間]

エリア | 小湊鐵道を軸とした周辺エリア

(五井、牛久、内田、平三、高滝、里見、飯給、月崎、月出、白鳥、養老溪谷)

いちはらアート×ミックス公式ホームページ | <https://ichihara-artmix.jp/>

ICHIHARA ART×MIX

2020

2019年5月2日(木) 12:30～14:00(12:00開場)

市原湖畔美術館 多目的ホール

入場無料*但し、美術館の入館料が別途かかります。定員70名(要予約)



お申込はこちらから

アクセス

所在地 | 〒290-0554 千葉県市原市不入75-1

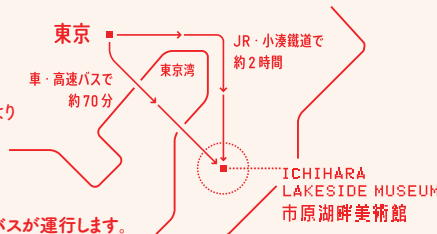
鉄道で | JR内房線五井駅乗り換え、小湊鐵道「高滝」駅より

徒歩20分/レンタサイクル10分/タクシー5分

お車で | 圏央道「市原鶴舞IC」より約5分

高速バスで | 東京駅・羽田空港・横浜駅より約1時間

*当日は、市原鶴舞バスターミナル—美術館間をシャトルバスが運行します。



出演: 鴻池朋子、羊屋白玉

モデレーター: 北川フラム (いちはらアート×ミックス総合ディレクター)

“晴れたら市原、行こう”をキャッチフレーズに2014年から始まった「いちはらアート×ミックス」は、2020年春に第3回目を開催します。この度、2020年に向けたキックオフイベントとして、現在、市原湖畔美術館で開催している「更級日記考—女性たちの、想像の部屋」にちなみ、美術、演劇の舞台で活躍する二人の女性をお招きしディレクターの北川フラムと鼎談します。「更級日記考」の出展者でもある鴻池朋子氏、アートミックス2014に参加した指輪ホテル主宰・羊屋白玉氏のお二人は、様々な地域にて、地域の方々と協働し作品を制作し続けています。二人の活動を参照し、アート×ミックス2020に向けてスタートを切ります!

出演者

鴻池朋子

1960年秋田県出身 埼玉県日高市在住。おもちゃ、雑貨のデザインを経て、1998年より絵画、彫刻、映像、アニメーション、絵本、手芸、パフォーマンスなど、様々なメディアでトータルインスタレーションを行い現代の神話を発表、芸術の問い直しを試みている。



羊屋白玉

「指輪ホテル」芸術監督。演出家、劇作家、俳優。劇場での公演の他、国内外の現代美術の芸術祭に招聘され、サイトスペシフィックな環境で演劇作品を発表している。アジアの女性アーティストたちとのコレクティブを目指す亜女会(アジア女性舞台芸術会議)代表。人々へのインタビューを通して生活史をアーカイヴし、発展と保存の対立の歴史から抜け出す未来を夢想している。ニューズウィーク日本誌で「世界が認めた日本人女性100人」に選ばれている。



モデレーター

北川フラム (いちはらアート×ミックス総合ディレクター)

1946年新潟県生まれ。ブームの下地をつくった「アントニオ・ガウディ展」、「子どものための版画展」、「アパルトヘイト否! 国際美術展」、米軍基地跡地を文化の街に変えた「ファーレ立川アートプロジェクト」等をプロデュース。「大地の芸術祭越後妻有アートトリエンナーレ」、「瀬戸内国際芸術祭」等の総合ディレクターをつとめる。



撮影: 山本マオ